

家庭科通信

47

2012

Vol.17 No.1

- ◆研究室から 男女共同参画社会の構築に向けて 3
——楽しく主体的な学びを創る「カルタ教材」の活用——
東京家政大学 青木幸子

- ◆家庭科室から 食の自立を目指して20
——「自分でつくるお弁当の日」を通した生きる力を育成するための学習——
福島県立喜多方東高等学校 佐藤真理子

- ◆新しい動き 「健康日本21」最終評価 8

- ◆エッセイ・和のある暮らし① 手作り和菓子 19
石橋富士子

- [HEAD LINE] 「母子健康手帳」に関する検討会報告書 10

- ◆日本家庭科教育学会 2011年度例会報告25

- [DATA FILE] 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」より 2

- [Question & Answer] ノンアルコールビール26

- ◆平成24年度版教科書のおもな訂正箇所24

- ◆大修館書店・新教科書のご案内 11



大修館書店

●夫婦が生んだ子ども数2人割る

国立社会保障・人口問題研究所は、5年に1度実施する「第14回出生動向基本調査」の結果を公表した。

このなかで、「完結出生児数」が、第1回調査(1940年)以降初めて2人を割り、1.96人となったことが明らかにされた。「完結出生児数」とは、結婚持続期間(結婚からの経過期間)が15～19年の夫婦の平均出生子ども数であり、夫婦の最終的な平均出生子ども数と見なされる。これまで第1回調査の4.27人が最高で少しずつ低下し、70年代以降は2.20人前後で推移してきた。それが前回(第13回、2005年)は2.09人と前々回(2002年)の2.23人を0.14人下回り、今回はさらに0.13人減の1.96人となっている(■□)。

出生に関するほかの指標としては、「合計特殊出生率」があるが、これは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の合計で、一人の女性が一生の間に生むとした子どもの数を示している(2010年、1.39人)。その数値の低下は晩産化と未婚者の増加が要因とされ、結婚した人の出生児数をあらわす「完結出生児数」は比較的安定的に推移しているとみられていた。ところが、今回の調査はそれを覆す結果となった。これは、結婚しても子どもをもたない夫婦や一人っ子が増加したことが要因と考えられ(■②)、少子化の傾向に拍車がかかっているものと推測される。

(参考：週刊「保健衛生ニュース」2011年11月21日号)

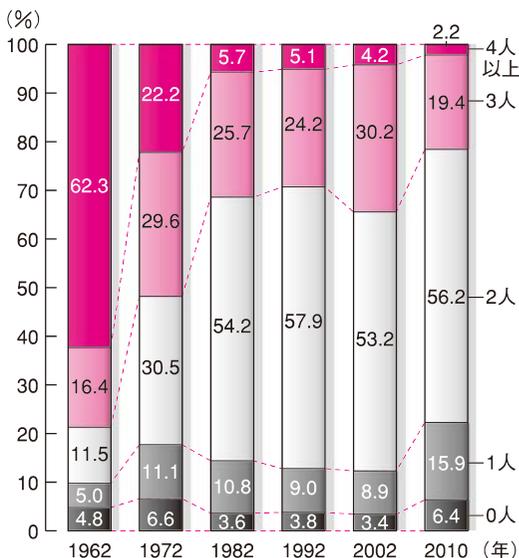
●詳細は国立社会保障・人口問題研究所webページ(<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou14/chapter2.html>)で閲覧・ダウンロードできます。

■□ 各回調査における夫婦の完結出生児数(結婚持続期間15～19年)

調査(調査年次)	完結出生児数
第1回調査(1940年)	4.27人
第2回調査(1952年)	3.50
第3回調査(1957年)	3.60
第4回調査(1962年)	2.83
第5回調査(1967年)	2.65
第6回調査(1972年)	2.20
第7回調査(1977年)	2.19
第8回調査(1982年)	2.23
第9回調査(1987年)	2.19
第10回調査(1992年)	2.21
第11回調査(1997年)	2.21
第12回調査(2002年)	2.23
第13回調査(2005年)	2.09
第14回調査(2010年)	1.96

注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦(出生子ども数不詳を除く)。

■② 調査別にみた出生子ども数構成の推移(結婚持続期間15～19年)



男女共同参画社会の構築に向けて

——楽しく主体的な学びを創る「カルタ教材」の活用——

東京家政大学 青木幸子

はじめに

男女共同参画社会の構築は、21世紀における我が国社会の喫緊の課題として位置づけられ、国、地方公共団体、市民団体などによりさまざまな啓発・学習活動が行われています。学校、家庭、地域、職場など社会のあらゆる場面で、法整備をはじめ慣習・慣行の見直しを含めて、男女平等についての意識と行動の変革が求められています。そうした社会の取り組みの動向は、国の施策としては『男女共同参画白書』として国民に周知が図られ、地方自治体では取り組みの成果や課題が実施評価として公表されています。

さらに、このような男女共同参画の取り組み状況について、政府は、国連女性差別撤廃委員会に進捗状況を定期的に報告書として提出するとともに、同委員会からの意見書を受理し、男女共同参画を推進するための課題と計画の見直しを行っています。

「女性差別撤廃条約」の批准以降、国民の性別役割分担に対する意識には変化が見られ、女性の社会進出も男性の家事・育児への参加も以前ほど違和感なく受け入れられつつあることが、統計から伺われます。しかし、長い期間をかけて教育され、身についた価値観や行動様式は、簡単に変えられるものではないこともまた事実です。そのため、男女平等意識の涵養に果たす学校教育の役割はきわめて大きいといえます。

教育職員免許法の改正により、東京家政大学では2000(平成12)年度入学生から必修科目となった「総合演習」において、筆者は「ジェンダーと教育」講座を開講してきました。ねらいは、女性差別撤

廃条約の趣旨を理解し、各自が設定した課題に取り組むことにより、日本と世界の男女平等の動向を把握し、教員としてより確かな男女平等意識を形成することにあります。しかし、講座を重ねるにつれて、教員としての資質能力の育成に留まらず、学校等で活用できる教材開発への意欲が高くなってきました。2006・2007(平成18・19)年度の受講生は、講座の履修を通して『男女平等を考える教育カルタ』を完成させました。

当初、中学校・高等学校の生徒向け教材として開発しましたが、社会人を対象とした男女共同参画講座においても意識啓発のための教材として活用の機会を得ています。

そこで、このカルタ教材を活用した授業や講座を通して、男女平等意識の啓発に果たすカルタ教材の効果について調査し、2009年度から3か年にわたり日本家庭科教育学会においてその結果を発表してきました。

本稿では、中学生・大学生・成人(いずれも女性)を対象とした調査結果の一部—カルタ教材からの学びの効果と性差意識調査の結果—について紹介したいと思います。中学生を青年前期、大学生を青年後期、成人を成人期と区分し、世代間の特徴を把握しました。

最も気になったカルタの傾向

全44枚のカルタのうち、「最も気になったカルタ」として選ばれた札の割合は、中学生68.2%、大学生75.0%、成人70.5%でした。この割合が示すとおり、同じ札を選んだ人が多かったのは中学生でした。中学生が選んだベスト3は、「け：結婚は二人の気持ちが第一です」「ら：ランドセ

ル 男は黒 女は赤 何でかな?」「や:止めさせたい 発達途上国の 児童婚」であり、この3枚を全体の41.8%の生徒が選びました。

また、「最も気になったカルタ」のうち異なる世代に共通に選ばれたカルタは■□のとおりです。なかでも三世代に共通に選ばれたカルタは、「お:お父さんの育児休暇 増えたらいいな 父子手帳」、「き:急な解雇 母になった だけなのに」、「ら:ランドセル 男子は黒 女子は赤 何でかな?」の3枚でした。

成人と大学生の二世代に共通に選ばれたカルタは、「は:肌の色や性別は違っても 人の価値は

変わらない」、「へ:変じゃない? 同じ仕事でも 男女で違うお給料」の2枚でした。

同様に、大学生と中学生に共通に選ばれたカルタは、「ほ:僕の夢は看護師さん 私の夢はパイロット」、「も:もう悩まないで パートナーからの ドメスティックバイオレンス」の2枚でした。

そして、中学生と成人に共通に選ばれたカルタは、「ゆ:許さない 男だから 女だからは もう差別」の1枚でした。

そこで、世代を超えて共通に選ばれたカルタを紹介します。「お」「き」「ら」「は」「へ」「ほ」「も」「ゆ」の8枚です。(■□)

■□ 世代別共通選択カルタ

対象者	共通選択カルタ(頭文字)
成人・大学生・中学生 (全世代共通)	お き ら
成人・大学生	お き ら + は へ
大学生・中学生	お き ら + ほ も
中学生・成人	お き ら + ゆ



■□ 世代を超えて共通に選ばれたカルタ

お (お) お父さんの 育児休暇 増えたらいいな 父子手帳

き (き) 急な解雇 母になった だけなのに

ら (ら) ランドセル 男子は黒 女子は赤 何でかな?

は (は) 肌の色や 性別はちがっても 人の価値は 変わらない

へ (へ) 変じゃない? 同じ仕事でも 男女で違うお給料

ほ (ほ) 僕の夢は 看護師さん 私の夢は パイロット

も (も) もう悩まないで パートナーからの ドメスティック バイオレンス

ゆ (ゆ) 許さない 男だから 女だからは もう差別

コラムに対する感想

読み札の裏にはコラムが載っています。「最も気になったカルタ」のコラムを読み、気づいたこと、考えたこと、分かったこと、疑問や課題などについて自由に感想を書いてもらいました。それを分析した結果が■③です。

この分析に当たっては、日本家庭科教育学会の子ども生活全国調査報告書(「全国調査からみた家庭科の学習効果と家庭科カリキュラムへの提

言)における家庭科の育む能力と学習効果との関連について分析した結果を参照し、ワークシートの記述内容を精確に4つに分類しました。

上段は感想の記述件数、下段は全体に占める割合を示しています。

三世代間で最も学習効果の高かった割合を赤で示しました。成人は「分かる」、大学生は「考える」、中学生は「意思表示」と「気づく」の割合が高く、コラムによる学習効果は、世代により特徴があることが分かりました。

■③コラムを読んだ感想—世代による比較

選択者		意思表示	気づく	考える	分かる	感想総計
		自らの意識・行動・課題・疑問など	驚き・ショックなど	世界・国・企業・環境整備などの対応	同意・現状追認・寄り添う心	
成人女性 n=90	件数	44	8	30	31	113
	割合	38.9	7.1	26.5	27.4	100
女子大学生 n=69	件数	24	13	34	24	95
	割合	25.3	13.7	35.8	25.3	100
女子中学生 n=79	件数	42	26	12	18	98
	割合	42.9	26.5	12.2	18.4	100

三世代の性差意識の傾向

カルタを活用した授業や講座の後に、同じ項目による意識調査を行い、各世代の性差意識の特徴を把握しました。

この調査項目は41項目あり、最後の1項目を除いた40項目は江原由美子氏による「性差意識調査」(男子高校生の性差意識, 藤田英典他編, ジェンダーと教育, 世織書房, 1999, p.196)の項目を採用しました。(p.7参考資料参照)各項目について、「そう思う」4点, 「どちらかといえばそう思う」3点, 「どちらかといえばそう思わない」2点, 「そう思わない」1点を配分し, アスタリスクのついた6項目は得点を逆に配分し, 平均値を求めました。■④は, 三世代の平均値の最大最少得点差が0.5以上の項目を示しています。平均値が低いほど, ジェンダーに敏感であることを意味します。

その結果, 最大得点は中学生に多く, 次いで成人, 大学生と減少していきます。最少得点は成人

と大学生が類似した傾向を示しています。

41項目すべての平均値を分析した結果, 性差意識が最も敏感な世代は大学生であり, ジェンダーロールにとらわれている世代は中学生であり, その中間が成人という結果になりました。

私の調査では, 高校生は対象としませんでしたので, 高校生を対象とした江原氏の調査結果を採用し, ■④の項目について中学生, 高校生, 大学の性差意識を比較したものが■⑤です。

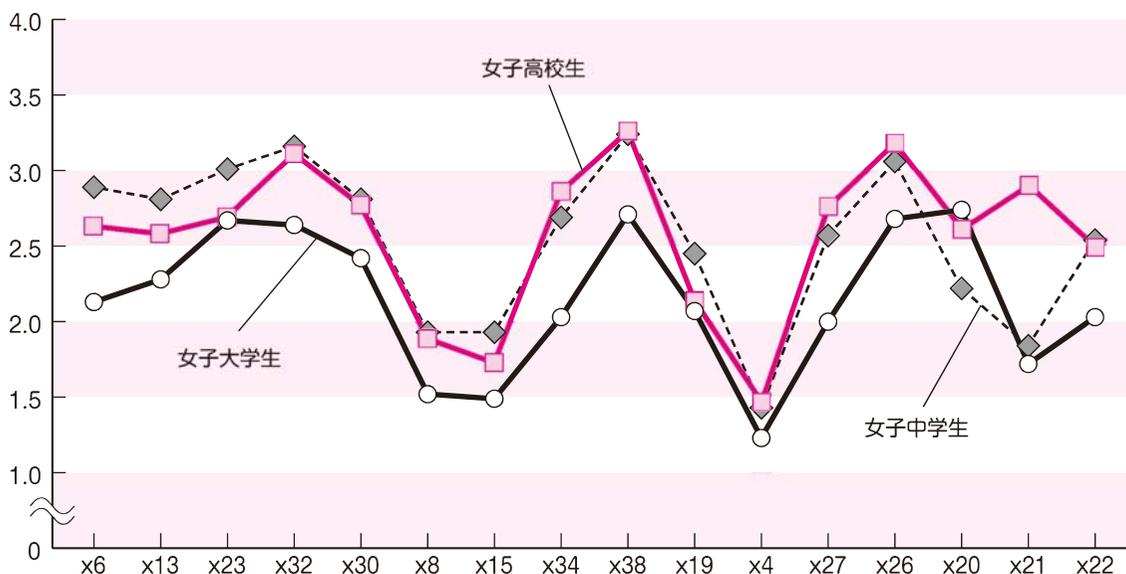
■⑤より, 対象とした16項目について, 性差意識が最も敏感な世代は大学生であり, ジェンダーロールにこだわりが見られるのは中学生と高校生で大差がないことが分かります。中・高校生の得点を比較すると, 中学生が9項目, 高校生が7項目において双方の得点を上回っていますが, グラフが重なり合うところもあり, その差は僅かです。

こうした結果からも学齢期における男女平等教育の重要性が認識できると思います。

■4 性差意識の分布—平均値の得点表(得点差が0.5以上の項目)

記号	項 目	平 均 値			
		成人女性	女子大学生	女子中学生	得点差
x6	男は背が高くなければ、と思う	1.94	2.13	2.89	0.95
x13	セックスにおいて男性がリードするのは当然である	1.93	2.28	2.81	0.88
x23	たくましい精悍な体つきは、男の魅力として重要である	2.16	2.67	3.01	0.85
x32	女が人前でタバコを吸うのは好ましくない	2.42	2.64	3.16	0.74
x30	一家の生計を支えられないような経済力のない 男性は男として失格である	2.08	2.42	2.81	0.73
x8	中学生になると男の子が成績の方が伸びる	2.23	1.52	1.93	0.71
x15	女性は視野が狭い	2.18	1.49	1.93	0.69
x34	男はむやみに弱音を吐くものではない	2.08	2.03	2.69	0.66
x38	女性は子どもを産めば母性愛が自然にわいてくるものだ	2.58	2.71	3.24	0.66
x19	女性が入れたお茶はやはりおいしい	1.86	2.07	2.45	0.59
x4	男性に家事や育児の能力も必要である*	1.80	1.23	1.43	0.57
x27	最終的に頼りになるのは、やはり男性である	2.18	2.00	2.57	0.57
x26	男性の性欲は概して女性に比べて強い	2.52	2.68	3.06	0.54
x20	将来、マラソンなど持久力を競う種目においても、 女性は男性と肩を並べるとする*	2.28	2.74	2.22	0.52
x21	女性は体力や精神力の点でパイロットなど人命を 預ける仕事には向いていない	2.23	1.72	1.84	0.51
x22	男性は女性に比べ攻撃的である	2.35	2.03	2.54	0.51

■5 女子中学生・高校生・大学生の性差意識



おわりに

以上、調査結果の一部を紹介しましたが、性差

意識は世代により異なることが明らかになりました。それは、知識や経験、環境の変化など様々な要因が大きく関与していると思われます。

また、カルタ教材のコラムは、世代により男女平等の意識啓発に及ぼす効果が異なることが分かりました。つまり、発達段階の異なる個人に多様な学びを提供できることを示唆しています。知識や経験の差を越えて、共に学び合える教材です。しかも、カルタは、多くの人にとって小さい頃から比較的なじみのある教材であり、カルタ取りをしながら楽しく、そして仲間と意見交換をしながら学ぶ方法は、自己内対話を活性化し、主体的な学びを促進する可能性を持っています。

固定的な性別役割分担意識の見直しについて、学校教育の一翼を担う教科として家庭科は大きな役割を果たすことが期待されています。職業選択、家庭生活の運営、市民としての地域活動への参加など、まさに自らの人生を見通しどのようなライフスタイルをとりながら、ワーク・ライフ・バランスを図っていくのか、その意志と自覚と行動力を育成する上において家庭科は大きな使命を担っ

ていると思います。

内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009)においても、政治、職場、家庭生活、法律・制度、社会通念の各分野の平等意識が20～40%台であるのに比べ、学校教育は最も高い68.1%でした。学校教育に寄せられる期待の大きさを表していると思います。学校教育で培われた物の見方、考え方などの能力は、生涯にわたる価値観の基礎を形づくります。男女共同参画社会の構築に向けて、われわれ教員もその役割を再確認して教育に当たりたいと思います。

最後に、本稿で紹介した『男女平等を考える教育カルタ』を教材として活用してみようとお考えの方は、筆者までご一報ください。本教材をたたき台にして、生徒の思いをカルタで表現するなど自在にご活用いただければ幸いです。

〈連絡先：aokis@tokyo-kasei.ac.jp〉

〈参考資料〉「性差意識調査」

記号	項	目	記号	項	目
x1	知的な能力は性差より個人差の方が大きい*		x22	男性は女性にくらべ、攻撃的である	
x2	クリエイティブ(創造的)な仕事に、性差はない*		x23	たくましい精悍(せいかん)な体つきは、男の魅力として重要である	
x3	体力を要しない大部分の仕事で、男女に能力の差はない*		x24	冒険心やロマンは、男の究極のよりどころである	
x4	男性は、家事や育児の能力も必要である*		x25	家庭のこまごました管理は、女性でなくては、と思う	
x5	男もおしゃれに気を配る必要がある*		x26	男性の性欲は、概して女性にくらべて強い	
x6	男は背が高くなければ、と思う		x27	最終的に頼りになるのは、やはり男性である	
x7	女性は男性にくらべ、臆病だ		x28	女性は月経があるので、精神的に不安定である	
x8	中学生になると、男の子が成績のほうが伸びる		x29	女性の美は、それだけで十分価値がある	
x9	女性は男性にくらべ、手が器用である		x30	一家の生計を支えられないような経済力のない男性は、男として失格である	
x10	体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのはやむを得ない		x31	子育ては、やはり母親でなくては、と思う	
x11	男性は女性にくらべ、人を使うのが上手である		x32	女が人前でタバコを吸うのは好ましくない	
x12	女性の優れた思想家は、あまり出ない		x33	子どものことよりも自分のことを優先して考えるような女性は、母親になるべきではない	
x13	セックスにおいて男性がリードするのは当然である		x34	男はむやみに弱音を吐くものではない	
x14	女性は何につけて責任を回避しがちである		x35	女性は男性にくらべ、感情的である	
x15	女性は視野がせまい		x36	男の生理からして、売野郎はいつの時代もなくならない	
x16	論理的思考は、男性のほうがすぐれている		x37	男は強くなければ、と思う	
x17	子どもを他人に預けてまで、母親が働くことはない		x38	女性は子どもを産めば、母性愛が自然にわいてくるものだ	
x18	女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である		x39	人前では、妻は夫を立てた方がよい	
x19	女性が入れたお茶は、やはりおいしい		x40	男性と女性は、本質的に違う	
x20	将来、マラソンなど持久力を競う種目において、女性は男性と肩を並べると思う*		x41	「男は仕事、女は家庭」の考え方に賛成である	
x21	女性は、体力や精神力の点でパイロットなど人命をあずける仕事には向いていない				

藤田英典他編「ジェンダーと教育」世織書房

正体重を維持することのできる食事量を理解している人の割合、メタボリックシンドロームを認知している割合など知識や態度レベルでは改善がみられたが、朝食欠食など行動レベルの変容にまでいたらなかったものもある。

○性・年代別では男女ともに20歳代で他の年代に比べ、脂肪エネルギー比率が30%以上の者の割合がもっとも高く、野菜摂取量がもっとも少なく、朝食欠食率がもっとも高く、体重コントロールを実践する人の割合がもっとも低いという結果であった。

(2)身体活動・運動

○意識的に運動を心がけている人の割合は増加したが、運動習慣者の割合は変わらなかった。運動の重要性は理解しているが長期にわたる定期的な運動に結びついていないと考えられる。

○日常生活における歩数については低下した。その原因として運動以外の生活活動量の減少が考えられる。

○高齢者については、外出に積極的な態度をもつ人の割合、何らかの地域活動を実施しているものの割合は、いずれも目標を達成した。

(3)休養・こころの健康づくり

○睡眠による休養をじゅうぶんに取れない人の割合は減少し、目標を達成したが、ストレスを感じた人の割合や、睡眠の確保のために睡眠補助品やアルコールを使うことがある人の割合は悪化した。

○国民全体の自殺死亡率は低下しているものの、自殺者数は3万人前後の状態が続いている。性・年代別の自殺死亡率では、50歳代以降の自殺死亡率は高いが減少傾向があり、近年では働き盛り世代(20~40歳代)の自殺死亡率が増加している傾向がみられた。

○患者調査によると、近年、うつ病が増加している。また、近年、メンタルヘルス不調や精神疾患による長期休職者が増加していることが複数の調査から報告されている。

(4)たばこ

○喫煙が及ぼす健康影響についての知識、未成年者の喫煙、分煙の徹底については改善がみられた。特に中高生の喫煙率が減少し、職場、公共機関等での受動喫煙防護が進んだのは大きな成果である。

○禁煙希望者の割合が増加し、喫煙率は減少したことから改善があったものと評価できる。

○2003年から2009年の喫煙率は、男性は46.8%から38.2%へ減少し、女性は11.3%から10.9%と横ばいであった。

(5)アルコール

○多量に飲酒する人の割合については、改善はみられなかった。

○未成年者の飲酒率(月に1回以上飲酒している者の割合)は、男女とも有意に減少した。性別にみると、男性に比較し、女性の改善状況が低かった。

○節度ある適度な飲酒の知識の普及については、男性は改善傾向にあるが、女性は変わらなかった。

(6)歯の健康

○進行した歯周炎を有する人の割合(40, 50歳)は目標値に達し、歯間部清掃器具の使用する人の割合、喫煙が及ぼす健康影響(歯周病)について知っている人の割合は増加傾向がみられた。

○80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合、過去1年間に定期的な歯石除去や歯面清掃を受けた人の割合、過去1年間に定期的な歯科検診を受けた人の割合は、いずれも目標値に達した。

(7)糖尿病

○糖尿病検診の受診および健診受診後の事後指導を受けている人の割合については、増加傾向がみられた。

○糖尿病有病者数について、2010年における目標値を下回り(目標達成)、糖尿病有病者で治療継続している人の割合については改善がみられた。

○糖尿病合併症を発症した人の数については、

2010年における目標を超えて悪化した。
○メタボリックシンドロームに関して中間評価で追加となった項目については、メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合は変わらなかった。

(8)循環器病

○血圧平均値および高血圧有病率は年齢調整値においては低下しており、過去からの改善傾向が続いていた。食塩摂取低下などの効果が考えられる。しかし、高血圧有病率は高齢者を中心に依然として高かった。
○循環器疾患死亡率(脳卒中、虚血性心疾患)は年齢調整値においては低下がみられた。しかし、虚血性心疾患の粗死亡率・死亡数は高齢化にともない低下がみられなかった。

○カリウム摂取量、男性の肥満者割合は悪化していた。
○メタボリックシンドロームの認知度はかなり高かった。

(9)がん

○がん健診受診者数は増加し、一部健診については目標値に達したものの、その後設定されたがん対策推進基本計画の目標値(平成23年度末までに受診率を50%にする)には遠く及ばない。
○果物摂取については悪化した。

厚生労働省「健康日本21」最終評価
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001ret5.html>)

HEADLINE

◆「母子健康手帳」に関する検討会報告書

厚生労働省は2011年11月、「母子健康手帳に関する検討会報告書」を発表した。

本報告書は、昨年9月から3回にわたり開催された同検討会の報告書であり、この報告書をもとに省令を改正し、本年から各市町村が新しい母子健康手帳の配布をおこなうことになる。

報告書のポイントは、妊産婦および乳幼児の健康の保持および増進の重要性に鑑み、「母子健康手帳」の名称は変更しないという点である。

「母子健康手帳の名称は変更しない」と名称変更に関してあえて記述している点が注目されるが、これは「母子健康手帳」を「親子手帳」に変えるべきである、という提案が検討委員の一部から出ていたからである。実際、茨城県常陸大宮市、愛知小牧市、宮崎市など通称として「親子手帳」にしている自治体もあり、父親の育児参加が増え、子育てをめぐる環境が変化している

ことから、名称変更について、議論が繰り返されたが、結局、現状の名称を変更しないことに落ち着いた。

報告書によれば、「父親の育児参加を促すために親子健康手帳等への名称変更が有効との意見があったが、妊産婦及び乳幼児の健康の保持及び増進の重要性という観点から、母子健康手帳の名称は変更しないことが適切と考えられる。なお父親の育児参加を促進するためには、父親にも記入しやすい欄をもうけるなどの工夫をおこなうことが望ましい」としている。

さらに、母子健康手帳は子育て期の家族の重要な記録となり、この記録を参考として保健指導や健康診査がおこなわれるなど、その重要な意義を示し、また父親が母子の健康について理解を深め、乳幼児期から子育てに積極的にかかわっていくために母子健康手帳を活用するという視点も重要である、と結んでいる。



新教科書 のご案内

2013(平成 25)年 4月施行
新学習指導要領準拠・文部科学省検定済

家庭総合 [家総 305]
豊かな生活をともにつくる

家庭基礎 [家基 308]
豊かな生活をともにつくる

[家庭 309]
未来を拓く **高校家庭基礎**

家庭科の先生方

新学年のスタートに際し、授業計画の立案や教材選定にお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、来年度からいよいよ新学習指導要領が施行されますが、それに準拠した新しい教科書がようやく完成いたしました。

小社は、「家庭総合」1冊、「家庭基礎」2冊の計3冊の教科書を発行いたします。いずれの教科書ともく生徒にとって学びやすく、教師にとって教えやすくを第一に編集いたしました。4月以降、各校営業担当が見本本をお届けにあがりますので、ぜひお手に取ってご覧ください。

さらに、毎日のご授業を強力にサポートする教師用指導書、評価問題例集、準拠版学習ノートも揃えております。詳しくは、見本本ともにお届けいたします教師用指導書パンフレットをご覧ください。

「現場のニーズを第一に」。先生方からのお声の数々とともに、真に現場に根ざした教科書づくりに取り組んでまいり所存です。どうぞ変わらぬご指導・ご愛顧ほど、よろしくお願い申し上げます。

from 大修館書店 家庭科編集部





未来の自分をみつけにいこう

高校生という
独り立ちを目の前にした
時期だからこそできる学び。
家庭科を通して、生活を、地域を、社会を
そして未来をつくる力を着実に身につけていってほしい。
そんな願いを込めて編集いたしました。

大切に思うこと、育てたい力

1 生活観の確立ができるように

生活は、毎日毎日繰り返される小さな営みですが、その小さな営みのなかで起こる変化や問題によって、人生は小さく、ときに大きく変わっていくものです。高校生が高校生という時期に、将来の自分を想像しながら生活について学び、自分なりの生活観を確立できることは、人生のさまざまなできごとを力強く乗り越えていく強さにつながると考えます。

2 自立や共生ができるように

男女共同参画社会の一員として男女が協力して家庭や社会を築くこと、ノーマライゼーションの意識をもって世代や国籍、障がいの有無を超えて共生すること、地球に生きる者として環境に配慮した生活を営むことなど、生活者として自立や共生ができる能力を育てたいと考えます。

3 課題をみつけ、解決できるように

学習していることと生活とが結びついていることが実感できると、学びがさらに充実し、実習や実験、体験的な学習を通してこそ、生活の課題を積極的に改善・充実できる知識や技術が身につけていきます。教科書に収録された小さな課題に挑戦し、問題解決能力を養い、ぜひ、その力を家庭で、学校で、地域で、社会でぜひ発揮してもらいたいと思います。

編集の基本方針

1 基礎基本が確実に習得できるように

国際化、情報化、少子高齢化、価値観の多様化といった、すべてが時々刻々と変化する現代に生きる高校生にとって、健康で文化的な生活を築いていくために必要な基礎的・基本的な知識や技術とは何か。この問いをつねに繰り返しながら、家庭科が対象とする幅広い学習内容から基礎・基本事項を精選しています。

2 興味関心をもって学べるように

生徒自身が興味関心をもって学べるよう、本文記述を補足説明する側注、学習の理解に役立つ適切な図表、コラムや課題をもうけて、自分の考えを広げたり発展させながら、より深く学習できる工夫をしています。

3 学習効果が高まるように

オールカラーの美しい配色、視線の混乱が少ないレイアウト、豊富なイラストや写真で、学習効果がさらに高まるようにしています。



家庭総合

[家総305]

*

豊かな生活を
ともにつくる

▶家庭や地域の生活をマネジメントする能力を育てることを重視し、家庭や生活の営みにかかわる知識と技術を、総合的に、分野にかたよりなくバランスよく学習できるように構成しました。

現行版

家庭037

新家庭総合

生活の創造をめざして
の後継です



B5判・228頁・オールカラー

家庭基礎

[家基308]

*

豊かな生活を
ともにつくる

▶自立して生活する能力と異世代とかかわりながらともに生きる能力を育てることを重視し、家庭や生活にかかわる基礎的・基本的な知識と技術を、分野にかたよりなくバランスよく学習できるように構成しました。

現行版

家庭046

新家庭基礎

生活の創造をめざして
の後継です



B5判・180頁・オールカラー

未来を拓く 高校 家庭基礎

[家基309]

*

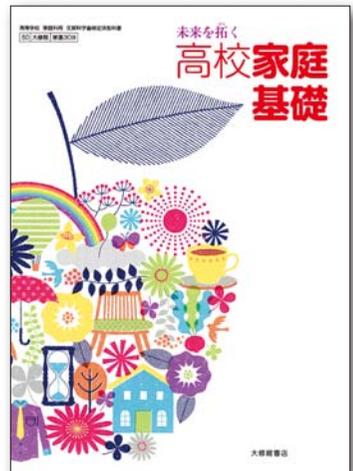
▶自立した生活を営み、人々とともに生きる能力を育てるために、家庭や生活の基礎的・基本的な知識と技術を確実に身につけることを第一に考えました。1時間の授業で学ぶ内容を1項目（見開き）で構成しています。

現行版

家庭047

高校家庭基礎

の
後継です



B5判・192頁・オールカラー

家庭総合 家庭基礎 紙面見本

[家総 305]
豊かな生活をともにつくる

[家基 308]
豊かな生活をともにつくる

縮小倍率 59 %

家庭総合 p.56 ~ 57
家庭基礎 p.44 ~ 45

point 1

見開きもしくは1ページで学習内容をまとめています。学習内容の区切りがつけやすく、授業計画が立案しやすくなっています。

point 2

記述は、生徒の日常生活に身近な話題をきっかけに、重要なことがらをおさえつつ学習を徐々に深めていける展開にしています。

point 3

図表やコラム、側注などの補助教材は、スペースの許すかぎり、数多く収録しています。教科書1冊でも毎日の授業に対応できます。

point 4

図表に配置しているイラストは、高校生が親しみやすいものを選びました。色づかいも鮮やかに、学習の理解を促します。

* 呼びかけ *

これから学習すること、今、学習していることが、自分の生活に深く関係していることをつねに意識できるように、タイトルは「呼びかけ型」にしました。また、本文も「私は〜」「あなたは〜」と、呼びかけや問いかけを随所に織り交ぜています。

* 体験的学習の充実 *

実験・実習課題の「Practice」、ミニ課題「Try & Hint」、そして章末課題「学習を生活にいかそう」に取り組むことで、学習が生活と関係しているという実感ももてます。実践的な学習はもちろん、小論文などの課題にも最適です。

1 高齢者の生活を見つめよう

高齢期に生じる生活課題は何だろうか。高齢期を充実させるためには、どのようにしたらよいだろうか。そして、まわりの高齢者と、どのようにかかわっていたらよいか考えてみよう。

1 生涯発達と高齢期

● 高齢者 社会的には65歳以上の人を高齢者という。さらに、65〜74歳を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と区分する。

1 平均寿命の国際比較



1 高齢期という時期

2065年ころには、今は高校生のあなたも**高齢者**と呼ばれる年齢になり、**高齢期**(老年期)を迎える。私たちは、ある日突然に高齢者になるのではない。日々の生活が、連続し、積み重なって生涯発達の完成期として**高齢期**を迎える。高齢期は、それまでの生活の統合の時期であると同時に、新しい生活の形をつくり出す時期でもある。平均寿命の延びとともに、**高齢期**は20年近くにもわたる長い時間となっている。それは、やり残したこと、次なる目標に挑戦するのにじゅうぶんな時間である。

2 私たちと高齢者

私たちは高齢者を「支援の必要な人」と思ったり、高齢期を「何かを失う時期」と思い込んではいないだろうか。

身近な高齢者を思い浮かべてみよう。人生で培ってきた思慮深さや寛容さ、経験や技術をいかして活躍する高齢者は本当に多く、その力に、私たちは育てられ、助けられてもいる。私たちは、充実した生活を送る高齢者からさまざまなことを学ぶとともに、**高齢期**の課題とその解決方法を考えていこう。

FOLLOW UP エイジズム

エイジズムとは、高齢期の心身の機能低下への無理解や蔑視。高齢者の能力が現代社会には通用しない、などの一方的評価による高齢者差別のことをいう。それは、就労機会の制約、高齢者に配慮のない生活環境、医療・年金・介護などの社会制度の貧困などにあらわれる。

2 高齢期を生きる



現在、世界的に活躍している高齢者や歴史上に名を残した高齢者にはどのような人がいるか名前をあげてみよう。

Best! その高齢者がどのような人生を送ってきたかも調べてみよう。



資料の豊富さは
トップクラス!!

2

高齢期の心身の特徴と生活

● このほか、体温調節機能が低下して脱水症状が起こりやすい、バランス調整力が低下して転倒しやすい、などがある。特に、夏の高湿・高湿度下では熱中症にかかり、命を落とす危険がある。

● **結晶性知能** 人間の知能は、結晶性知能と流動性知能に分けられる。結晶性知能は、技術や経験をもとにものごとを解決する能力、流動性知能は、記憶力や判断力、計算など、瞬時にものごとを判断する能力である。

● **健康寿命** 日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと。WHOが2000年に公表したことでは、平均寿命から自立した生活ができない期間を引いた年数が健康寿命になる。2000年のWHOの報告書では、日本人の健康寿命は男性72.3歳、女性77.7歳で世界第1位であるが、平均寿命と比べるとやや短い。健康寿命をいかに平均寿命に近づけるかが、これからの高齢社会の課題である。

1 体の変化・心の変化

私たちの心身は、加齢とともにその形態や機能が変化する。

個人差はあるが、75歳以上になるとその変化が大きくあらわれる場合が多い。たとえば、視力や聴力、筋力や骨の強度、免疫力、記憶力や瞬時の判断力、環境の変化への適応力といった機能が低下してくる。そうした心身の変化をうまく受け入れられずに自信を失ったり、孤独感をもってしまうこともある。

一方で、結晶性知能は加齢による低下があまりみられず、自立した生活で主体的に問題を解決したり、積極的な社会活動を続けることで、それはさらに高度な能力(知恵)になっていく。人生の成熟期に知恵をいかして活躍する高齢者はたいへん多い。

2 心身の変化への対応

加齢ともなう心身の変化はだれにでも生じる。そこには、

若いときからのライフスタイルが大きく影響し、始まる時期や生じる部位、速度には大きな個人差がある。高齢者にとって心身の健康維持は大きな課題である。定期的な健康診断、バランスのとれた食事、体力に応じた運動の継続、趣味や社会参加の機会をもつことによって健康寿命を延ばす努力が大切である。

* 側注 *

学習の理解に役立つよう、用語解説や補足説明をていねいに詳しく掲載しました。

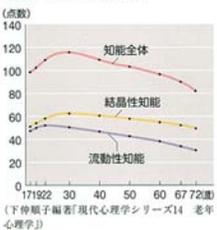
* FOLLOW UP *

読みものを中心に本文と関連の深いトピックスを集めた「FOLLOW UP」は、生徒の興味関心をさらに広げます。

* 豊富な資料 *

教科書1冊で、一通りの学習ができるよう、授業でよく使われている資料を中心に満載しました。グラフは、可能な限り数値を掲載してありますので、的確に傾向を読み取ることができます。

3 高齢者の知的能力



1 知恵

理解力、洞察力、ものごとの判断力、調整能力、コミュニケーション能力、アドバイス、他者理解、自己理解、内省力

FOLLOW UP

実は少ない、介護の必要高齢者

あなたは、介護の必要高齢者がどのくらいいるか、知っているのだろうか。実は、介護が必要な高齢者は少ない。65歳以上の高齢者のうち、介護保険制度(→p.63)で介護が必要ない「要介護」と認定された高齢者は約16%である。75歳以上になると、たしかに介護の必要高齢者は増えるが、それでも7割の高齢者は健康に留意しながら、自立して生活している。

5 介護の必要高齢者の割合

	65歳以上	65~74歳	75歳以上
合計	16.0(%)	4.3(%)	29.2(%)
要支援	4.2	1.2	7.6
要介護Ⅰ	2.7	0.7	5.0
要介護Ⅱ	2.8	0.8	5.0
要介護Ⅲ	2.5	0.7	4.6
要介護Ⅳ	1.3	0.5	3.6
要介護Ⅴ	1.7	0.4	3.2

[注] 各年齢層の高齢者数を100としたときの割合。(厚生労働省「平成20年度介護保険事業状況報告」)

未来を拓く ひら [家基 309]

高校家庭基礎 紙面見本

縮小倍率 59 %

p.150 ~ 151

point 1

見開き (1 title) = 1 時間 (1 unit)。1 時間の授業内容を見開きで展開。授業計画の立てやすさ、学習の効率のよさが際立ちます。

point 2

「基礎・基本を確実に」。かぎられた時間内で家庭科全分野が学習できるように配慮しました。

point 3

実習課題 [TRY & HINT] に取り組むことで、学習していることと生活とが深くかかっていることを直感的に理解できます。

point 4

図表は、重要資料を厳選して収録しています。巻末「資料編」の資料と合わせれば、[家基 308] に匹敵する資料数です。

* 基礎・基本を確実に *

基礎・基本を確実に身につける。これを第一に考えました。学んで欲しいこと、身につけて欲しいことを精選し、見開き = 1 時間にまとめて展開しています。ページ上には毎時間の学習内容をイメージしたイラストを配し、読みやすい文字、イラストや写真で構成した図表など、親しみやすい紙面づくりを心がけました。

* 実践的な学習を充実 *

見開きに一つ登場するミニ課題「ワーク」と章末課題「学習を生活にいかそう」に取り組むことで、学習が生活と関係しているという実感がもてます。実践的な学習はもちろん、小論文などの課題にも最適です。

1 生活が環境に及ぼしている影響を考える

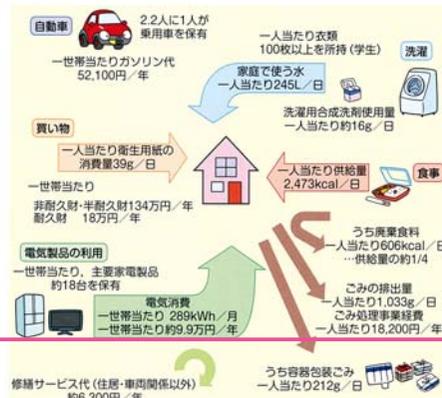
1 私たちの生活と環境問題

今あなたは、毎日の生活でどのくらいの量の電気やガス、水を使用しているだろうか。

私たちの生活は、自然を基盤として成り立っている。私たちは、便利で快適な生活や経済的に豊かな生活をめざすあまり、大量の資源やエネルギーを用いて大量生産されたものを大量消費してきた。その結果、容器包装や食べ残し、使わなくなったものなどのごみ、調理・洗濯・入浴・水洗トイレなどからの生活雑排水などの大量廃棄の問題、かぎりある資源・エネルギーの枯渇、大気汚染や温暖化のような気候変動など、環境に大きな負荷を与えている。

近年では、海外から輸入される原材料や製品も少なくない。海・空は全世界につながっている。私たち一人ひとりのライフスタイルの選択、一つひとつの具体的な行動が、身近な環境だけでなく地球規模の環境に

1 日常生活における環境負荷の例



2 部門別二酸化炭素排出量の割合 (2007年)



ワーク

TRY あなたの住む地域のゴミ事情を調べてみよう。現在とこの10年間の変化を調べて比較してみよう。

HINT ■ごみの量・内容・処理方法・処理費用 (税金からの支出) の現状がどうなっているか、自治体の広報資料等を参考にしてみよう。



授業計画が
立てやすい、
見開き = 1 時間

学習のねらい

- ▼現在の消費生活が環境に与えている影響を理解しよう。
- ▼社会の変遷と環境とのかわりについて考えよう。
- ▼自分自身の生活を地球環境とのかわりからとらえ直し、環境に調和したライフスタイルを実現しよう。

環境

も影響を及ぼしているのである。

2 循環型社会・低炭素社会を実現するライフスタイル

自分自身の生活が、どのくらい環境負荷を与えているか考えたことがあるだろうか。一般廃棄物や水質汚染物質、地球温暖化のおもな要因といわれている二酸化炭素排出などの発生源として、家庭の占める割合は少ない。

かぎりある資源を有効に用いるためには、資源を循環させることが不可欠である。「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の生活を見直し、新たな資源の投入を抑え、廃棄物をなるべく少なくする「循環型社会」の構築が求められている。

二酸化炭素排出の少ない低炭素社会を実現するには、エネルギー消費量の削減が必要である。まずは今の生活を点検し、エコライフをめざして具体的に取り組んでみよう。

※① 一般廃棄物に占める生活部門(家庭)からの割合は71%(2008年度)。水質汚染物質では53%(2004年)となっている(環境省「環境統計集」2010年)。

※④ エコライフ エコロジカル(環境に調和した)ライフスタイル(生活様式)のこと。

*** 図表の読み取りも確実に ***

図表にイラストを配置したり、フローチャートで視覚的な理解が得やすいように工夫しています。また、図や表からどのようなことが読み取れるのか、「スターくん」がやさしく、ていねいに解説します。

*** コラム ***

読みものを中心に本文と関連の深いトピックスを集めた「コラム」は、生徒の興味関心をさらに広げます。

3 循環型社会の姿

コラ*ム
MOTTAINAI
ものは多様な資源からつくり出されている。「もったいない」は、ものや資源をできるかぎり有効に活用しよう、という気持ちから発せられることば。
「持続可能な開発と民主主義・平和への貢献」からノーベル賞を受賞(2004年)した前ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイさんにより、日本の「もったいない」精神にもとづいた生活が、価値あるライフスタイルとして再発見され、「MOTTAINAI」ということばで海外にも紹介されている。あなたのまわりの「もったいない」精神にもとづいた生活の例にどのようなものがあるか、考えてみよう。

図の①～⑤は、私たちがとるべき行動の優先順位で、循環型社会の基本枠組みを定めた循環型社会形成推進基本法(2000年制定)に明記されています。①の前に「ごみになるものは断る(リフューズ: Refuse)」ことが、さらに廃棄物の発生抑制につながります。リデュース、リユース、リサイクルを3 Rと呼び、リフューズを加えて4 R、リペア(Repair: 直す)を加えて5 Rとすることもあります。

Cooking

調理実習

家庭総合……………家総 305

● 日本料理の献立

さつまいもご飯、麩とみつばのすまし汁、ぶりの鍋照り焼き、青菜のごま和え

● 西洋料理の献立

若鶏のソテー・トマトソース、コンクリームスープ、ツナビーンズサラダ

● 中国料理の献立

炒飯（焼きめし）、番茄木耳湯（トマトときくらげのスープ）、青椒肉絲（ピーマンと肉のせん切り炒め）、杏仁豆腐（牛乳かん）

● 正月料理三種

だて巻き、煮しめ、紅白なます

● デザート三種

プリンアラモード、チョコバナナマフィン、どら焼き

● 軽食の献立 I

親子どんぶり、野菜の浅づけ

● 軽食の献立 II

ペーコンクリームパスタ、ガーデンサラダ

● お弁当

おにぎり、鶏のから揚げ風、厚焼き卵

● 環境に配慮した調理

ドライカレー、イタリアン卵スープ



家庭基礎……………家基 308

高校家庭基礎……………家基 309

● 日本料理の献立

ご飯、わかめととうふのすまし汁、肉じゃが、きゅうりとしらすの酢のもの

● 西洋料理の献立

めかじきのハーブパン粉焼き、コンソメジュリエース、ブランマンジェ

● 行事食の献立

ちらしずし、茶わん蒸し

● デザート三種

フルーツあんみつ、チョコバナナマフィン、どら焼き

● 環境に配慮した調理

レタスチャーハン、ゆで鶏とザーサイのサラダ、ジンジャースープ

● 軽食の献立 I

親子どんぶり、野菜の浅づけ

● 軽食の献立 II

ペーコンクリームパスタ、ガーデンサラダ



Sowing

被服実習

● ハーフパンツ

スリットの入ったパンツ

● ベスト

えりつけ、パイアステープ処理の入った本格派ベスト

● ペットボトルカバー

小物ですが、被服製作が一通り学べるおすめの題材



小社の家庭科教科書は、毎年可能なかぎり、法律や制度の改正、社会状況の変化等を反映した記述等の変更、統計資料のデータ更新をおこなっております。鮮度が命の家庭科。いつも最新の状態でお使いいただけるようにしています。

エッセイ・和のある暮らし⑪

手作り和菓子

石橋富士子

文・イラスト/いしばし・ふじこ

イラストレーター。女性誌、教科書などの挿絵、イラスト、エッセイや手作り小物、半襟デザイン(和キッチン)など多彩に創作している。「家庭科通信」の表紙イラストも創刊時から手がけている。著書に『知識ゼロからの着物と暮らす入門』(幻冬舎)、『べたこさんの手作り生活』(フィールドワイ)などがある。ブログ「着物と和力(わ・ちから)」(<http://petacokimo.exblog.jp/>)も更新中。

健康ブームの影響なのか、ケーキよりも和菓子を好む人が増えています。デパートのお菓子売り場には今の時代に合うように工夫された和菓子が並び、どれにしようかと迷ってしまうほどです。

アズキや米粉など自然の恵みを活かした和菓子、着色も紅アズマ粉や抹茶、きな粉など自然の物を使った優しい色合いに癒されます。

特別な設備も必要としないで家で簡単に作れるのも和菓子の良いところ。うぐいす餅、栗羊羹、茶巾絞り、桜餅など挑戦しました。素人としては上出来、上出来、作りたてはやはりおいしいなあと悦に入っています。

季節を先取りするように和菓子を作り、誰かと分け合ってお茶を楽しむのは幸せです。細やかな四季と風物を見立ての文化がある日本は本当に素敵な国だなと思います。

先日は落雁に初挑戦しました。材料は白砂糖と米粉から作ったみじん粉。好みで袖のすり下ろしや汁、抹茶などを入れ味と色を整えます。

落雁の醍醐味は型抜き作業。型に入れて出す作業がなんとも楽しいのです。昔ながらの木型や焼

き物の型などもありますが高価ですので、ゼリー用のシリコン型チョコレートやクッキー型などで代用。どんな型を使おうかセンスの見せ所ですね。

作業は簡単。粉を詰めて逆さにしてスリコギで軽くたたくとポロンときれいに出てきます。軽く詰める方が口当たりが良いのですが、同時に形も崩れやすくなるので、この加減が難しいところ。

今回一番の傑作は、海外で求めたアンティークのクッキー型。陶器製の大きい羊型で作ったら立派な羊の落雁が完成しました。思わず「わ〜！」と歓声を上げました。(ブログに写真を載せますのでよかったらご覧になってくださいね。<http://petacokimo.exblog.jp/>)

落雁は火を使わないので、そろそろお料理に目覚めた年頃のお子さんと一緒に作業してもいいですね。花や魚や鳥など、色々な季節のお話しをしながら作り、お茶と共に味わえば情緒も育まれそうです。

ちょっとしたお土産にもいかがでしょうか。手作りの落雁！ 驚き、喜ばれることでしょう。



食の自立を目指して

——「自分でつくるお弁当の日」を通した生きる力を育成するための学習——

福島県立喜多方東高等学校(前福島県立福島明成高等学校) 佐藤真理子

1 はじめに

(1) スクールカウンセリングのコーディネーターの経験から

私は前任校の福島明成高校でスクールカウンセリングのコーディネーターを6年間務めていた。カウンセリングを受ける生徒の家庭では、どちらかという、食事をじゅうぶん摂取しないという傾向が見られた。親が料理をしようとせず規則的に食事をつくらない。そのために家庭で親子の会話がないなど。その結果、心と体の栄養不足が意欲の喪失を引き起こし、学校継続の危機へとつながっていった。

(2) 食を取り巻く状況

核家族化等家族の少人数化、社会情勢の変化に伴う多忙化により、生徒たちの食はないがしろにされている。調理済み食品、加工食品の多様化以前に、規則的な食生活が営まれていない。欠食のほか、時間的にも内容的にも間食と食事の区別がない、献立の形を呈していないなど、ただ食べることだけに終始している生徒も少なくない。また、そうした状況に慣れてしまっていて、自分の食のあり方を振り返ることをしない生徒もいる。

このままの食生活では、心身ともに健康な子どもたちは育成されにくい。ここで食生活を見直し、食を営む実践力を身に付けさせなければ生徒の将来のみならず、その子孫たちにも悪い連鎖が広がることになるかと危機感をもった。

(3) 「お弁当の日」提唱者の竹下和男先生との出会いから

平成20年11月、「お弁当の日」について知った。提唱者の竹下先生は、食べたい時に食べたい物をただ食べているだけでは、生きている実感が無いと言う。お弁当を自分でつくることによって「暮らしの時間」を取り戻し、心の空腹感が減り、自分が生きているという実感が得られるという心の面からのアプローチが斬新かつ実質的で納得した。

(4) 半年後の平成21年7月、「お弁当の日」の計画を立てる

私も生徒に自分でお弁当をつくる力を育てたい、自信を付けさせ、生きる力を養いたいと考えた。

竹下先生の小学校での取り組みでは、お弁当づくりによって自信を付けさせ、親や食物を取り巻く人々への感謝の心を養ったりするなどの効果が得られた。しかし、本校での取り組みは、まったなし、朝食、夕食も満足に与えられていない子どももいる、自分で食事を準備する姿勢と能力を養わなければと壮大な目標までもった。

しかし、多忙化している学校現場の中、教員に余り負担はかけられない。できる範囲でまずは担当の私が頑張ることでやってみようと考えた。職員会議で了承され、生徒への告知は、カウンセリングだよりや家庭科の授業の中で行い、また、保護者会でも理解と協力を呼びかけた。

2 福島明成高校の概要

福島明成高校は創立110周年を超える福島県内最古の農業高校であり、1学年は5学科6クラス、合計18クラスから成る。農業者育成のみならず、作物の販売、ワークショップの開催などを通して

地域に教育活動を還元，地域の学校としての機能も果たしている。生徒数は約700名で男女比は1：1である。稲作，野菜を主に学ぶ「生物生産科」の家庭は三世代同居が約4割を占めており，兼業農家も多いが，県庁所在地である都市部に位置していることもあり，その他の学科は共働きのサラリーマン家庭が多く，非農家の割合が非常に高い。

3 実施1年目

(1)平成21年度 第1回お弁当の日実施(10/13)

テーマ「自分が食べたい，栄養バランスがとれたお弁当」

将来にわたって，生活を営もうとする意欲と実践力，特に食の自立を育成するために，学校全体で，年2回「自分でつくるお弁当の日」を設定し，実施することとした。年2回としたのは，学校行事の関係で，年2回が限度であったからである。

初めてのお弁当の日は，多いクラスで約半分の生徒がお弁当をつくってきた。朝のSHRでアンケートに記入させ，写真やイラストを添えて，担任に提出。実施状況をカウンセリングだよりにまとめ，配付するとともに，廊下にアンケート，写真，実施状況等を大きく掲示。つくってきた生徒を賞賛するとともに，次回への参考になるようにした。先生方数人もつくってくださった。

<問題点>

①実施した生徒が少なかった。

学校全体で18.5%：

1年生22.5%，2年生21.0%，3年生11.9%

3年生が極端に少ない。男子のみのクラスが極端に少ない。食品加工を専門とする学科では，事前に栄養教諭を招いてお弁当を実習。取り組み状況は50.0%とかなりよい。1回目は成績に加算するという話はせず，純粹に「お弁当をつくることの良さ」を訴えての実施，ある意味本当に生徒は自主的に取り組んだことになる。

②生徒の思いを受け止めきれず

学校公開が10月下旬，学校祭は11月など行事が立て込んでおり，多忙の余り，つくってきた

生徒たちの思いを十分受け止めることはできなかった。

(2)平成21年度 第2回お弁当の日実施(2/8)

テーマ「食品添加物，市販冷凍食品などを使わないより健康を意識したお弁当」

2回目もポスターやちらし等を駆使して告知したが，朝大雪が降って交通機関が乱れ，お弁当づくりどころではない生徒も続出した。しかし，当初からお弁当の日を推進してくださった校長先生は，秘伝のシソ漬けを巻いたおにぎりなどをつくってくださった。第2回目のテーマは「市販冷凍食品を使わないお弁当」としたところ，いつも冷凍食品を使っているのどうやってつくったらいいかかわからないという声も聞かれ，実態把握の甘さを反省した。

<問題点>

実施した生徒が少なかった。

学校全体で14.7%：

1年生20.0%，2年生9.2%，3年生実施せず

相変わらず男子のみのクラスが極端に少ない。

1回目はつくったが，2回目はつくらなかった生徒が増加(45名)。1回目はつくらなかったが2回目はつくってきた生徒もいた(28名)。

4 実施2年目

今年度も実施するかやや迷ったが，ここで止めては効果が上がらずじまいなので，方法を改善して実施することとした。

<改善点>

①学校行事の一つとして明確に位置づける
教職員，生徒に対して共に意識を促す。

②告知を早めにする

4月当初に保護者等にわたす学校カレンダーに，あらかじめ年2回の弁当の日を明記。

③お弁当を自分でつくることの良さを共有する
カウンセリングだより等を適宜出す。

④家庭科で1，2年生対象に献立作成を指導
3年生は授業がないため出来ず。

⑤「まとめの時間」を設定

朝25分間、写真撮影、情報交換、アンケート記入をするための時間を設定。

1年生は夏休み前に献立作成の方法を指導、2年生は食物分野の授業中に献立を作成させ、どちらも実際につくってみることを夏休みの課題とした。栄養のことがあまりわかっていなくても、献立しやすいように「主食」「主菜」「副菜」などと欄を区切って、書きやすいようにした。

→宿題なので成績に入れると告知。

→夏休み後、担当者がアドバイスを記入して、弁当の日の一週間前に返却。

アンケートは、実施してこなかった生徒も答えられるような内容にいつもしてきたが、今回からアンケートを記入する時間が十分確保されたので、実施前後の生徒の気持ちや変容がわかるようなアンケート項目にした。「まとめの時間」では、朝早く起きてつくってきた生徒の思いを受け止め、また、つくってこなかった生徒に対しては次回へ意欲が繋がることをねらいとした。

「まとめの時間」の指導は担任に依頼。高校は教科担任制なので食に関する指導はやや困難にも思われたが、予算や時間がない中、工夫して写真撮影等をしてくださった。担任の先生もお弁当をつくってきてくださった方もいた。しかし、多くの生徒がお弁当をつくってきたクラスは時間不足になり、反対に数人しかつくってこないクラスは時間が余った。これらのことから「まとめの時間」の担任の負担は大きかったと思われる。

(1)平成22年度 第1回お弁当の日(10/4)

テーマ「旬の食材を用いたお弁当」

どの学年も実施率は増加、特に1、2年生が飛躍的に増加。学校平均は昨年18.5%から2倍以上の41.7%に。1年の男子ばかりのクラスが16人つくってきて、一同で驚いた。

<実施率>

平成21年1回目	1年	22.5%	2年	21.0%
	3年	11.9%		
平成22年1回目⇒	1年	62.2%	2年	47.5%

3年 13.4%

1位 87.5%(1年5組)

2位 73.2%(1年1組)

実施率が上昇したのは、かけ声だけでなく、献立の立て方を指導したことによって知識を得、自分でもつくれるという気持ちにさせたからではないかと思われる。当初、生徒が考えた献立は、卵焼き、唐揚げ、ポテトサラダなど市販の弁当そのものといったものも多かったが、献立作成の際に野菜や海藻、キノコなども活用するように促したところ、素晴らしい献立が増加した。

(2)平成22年度 第2回お弁当の日(2/11)

テーマ「大切なあの人に食べてもらいたいお弁当」

日頃お弁当をつくってくれている母親への感謝を述べている生徒が多かったが、昼食にレトルト食品ばかりを食べている父親の健康を気遣って栄養バランスのとれた弁当をつくった生徒もいた。

<実施率>

平成22年2回目⇒1年生53.8% 2年生19.1%

(3年生は実施せず)

学校平均 36.8%

自分でお弁当をつくった割合
(ランキング上位5クラス)

1位	1年5組	94.9%
2位	1年1組	61.5%
3位	1年3組	55.0%
4位	2年5組	46.2%
5位	1年2組	42.5%

4 まとめと今後の課題

(1)生徒の感想

<肯定的な感想>

- つくってみたら楽しかった
- 大変だがやりがいがあった
- 親のありがたみがわかった
- 残さず感謝して食べた
- 一日爽やかな気分

- 知識や技術が少し身についた
- 食事づくりを手伝うようになった
- こんなに時間がかかるとは思わなかった
- もっと上手に作りたい
- 今後時々は作りたい
- たまにはこういう企画もいい

<否定的な感想>

- 朝起きるのがつらい
- 面倒くさいので作りたくない

(2)まとめ

改善策により実施率が上昇した。1回目は非能率的で6時間もかかっていた生徒も2回目は手早く盛り付けも美しくつくっていた。お弁当づくりは大変だが充実感があったと感想を述べている生徒が多いことから、自信や生きている実感の体得に少なからず効果があったものと思われる。「今

後、お弁当をつくりたいか」については、「いつもつくりたい」「時々つくりたい」がほとんどであり、肯定的な意見が多かった。

(3)今後の課題

「お弁当の日」の継続はこのままでは食育担当者や担任に大きな負担が伴う。今後より一層、教職員にお弁当の日への理解を促し、学校行事として仕事の分担をシステム化する必要があると思われる。また、取り組みが少ないクラスは生活態度、学習態度とも低迷しているクラスであり、そういったクラスの生徒にこそ食の自立や自信を促す「お弁当の日」が必要であるが、なかなか浸透しない。丁寧な反復指導が必要である。

■参考文献

竹下和男著「台所に立つ子どもたち」自然食通信社
2006年5月15日発行

■生徒が作ったお弁当



平成24(2012)年4月よりご使用いただく小社教科書は、年次発行の資料等をできるかぎり新規データに更新をしております。つきましては、4月からのご指導に備え、これら訂正箇所およびその内容をご確認・ご理解いただければと存じます。また、新1年生もしくは新規使用開始学年のご教授に当たっては、先生方におかれましても、奥付記載が「平成24年4月1日発行」の教科書をご使用いただきますようお願い申し上げます。

◆統計資料の更新箇所

新家庭総合 生活の創造をめざして[家庭037]

口絵⑤●日本人の栄養バランスと国際比較、口絵⑥「輸入大国ニッポン」本文、家庭における食品群別の食品ロス率、p.13▼⁷、▼⁸、▼¹⁰、p.16▼¹⁶、p.21▼²⁴、p.22▼²⁹、p.25▼³¹、p.26★離婚、▼³⁵、▼³⁸、p.35図D、図E、p.38▼¹、p.39*1、p.41▼⁴、▼⁵、p.42▼⁷、実習(新規学卒者初任給)、▼¹⁰、p.43▼¹¹、p.44▼¹³、p.53*1、p.58▼⁴¹、p.78FOLLOWUP、p.79▼²⁹、p.88▼³⁷、p.90▼⁴²、p.91▼⁴⁴、p.92本文(合計特殊出生率)、▼⁴⁵、p.100▼⁵、▼⁷、p.101▼¹⁰、▼¹²、p.105▼²¹、p.107▼²⁴、p.117図C、図D、図E、p.121▼²、p.125▼¹⁰、p.126▼¹²、p.127▼¹⁰、p.137▼⁴¹、p.140▼⁵⁰、p.141本文(食品添加物数)、p.162▼³⁸、p.195 FOLLOWUP、▼⁹、p.199▼²⁰、p.200▼²²、p.214図A、p.229 四つの食品群別摂取量のめやす

新家庭基礎 生活の創造をめざして[家庭046]

口絵⑤●日本人の栄養バランスと国際比較、口絵⑥「輸入大国ニッポン」、家庭における食品群別の食品ロス率、本文、p.14▼¹¹、p.21▼⁵、p.22▼¹⁶、p.25▼¹²、p.26★離婚、▼¹⁸、▼¹⁷、p.32図B、p.33図E、図F、p.42FOLLOWUP、p.43▼¹⁹、p.48▼²⁴、p.50▼²⁹、p.51▼³¹、p.52本文(合計特殊出生率)、▼³²、p.58▼⁴、▼¹⁶、p.59▼¹⁰、p.63▼¹⁸、図A、図B、図C、p.72▼¹、p.73*1、p.75▼⁴、▼⁵、p.76▼⁷、実習(新規学卒者初任給)、▼¹⁰、p.77▼¹¹、p.78▼¹³、p.84*1、p.88▼³⁰、p.99▼⁷、▼⁸、p.100▼¹⁰、p.109▼³¹、p.112▼⁴⁰、p.113本文(食品添加物数)、p.130▼⁵⁰、p.133図E、p.158▼²¹、p.159▼²⁹、p.177 四つの食品群別摂取量のめやす、p.165図C

あす ひら
明白を拓く 高校家庭総合[家庭038]

p.16▶2、p.21●離婚、▶3、▶4、p.22▶3、p.38▶2、▶3、p.42*1、p.46▶1、▶2、p.48▶1、p.49TRY(新規学卒者初任給)、▶4、p.52▶1、p.57▶3、p.68FOLLOWUP、p.69▶2、p.74▶1、p.75▶5、p.76本文(合計特殊出生率)、▶1、p.82▶2、p.83▶4、▶6、p.84▶1、▶2、p.86▶2、p.101▶3、▶4、p.106▶1、p.107▶3、FOLLOWUP、p.109、▶4、p.111▶3、p.119▶3、p.120▶1、p.121*1、p.123▶3、p.144▶1、▶2、p.173▶3、p.178▶1、p.182▶1、口絵⑤●日本人の栄養バランスと国際比較、口絵⑥「輸入大国ニッポン」本文

あす ひら
明白を拓く 高校家庭基礎[家庭047]

p.17●離婚、p.17▶3、▶4、p.18▶3、p.27▶3、▶4、p.29*5、p.32▶1、▶2、p.34▶1、p.35TRY(新規学卒者初任給)、▶4、p.38▶1、p.50FOLLOWUP、p.51▶2、p.56▶1、p.57●少子化、▶3、p.62▶1、p.63▶4、p.64▶2、p.74▶1、p.76▶1、p.77▶3、FOLLOWUP、p.79▶4、p.81▶3、p.87▶3、p.88▶1、p.89*1、p.91▶3、p.96▶2、p.131▶2、p.143▶6、p.148◆在宅介護を望む理由、◆施設介護を望む理由、口絵⑤●日本人の栄養バランスと国際比較、口絵⑥「輸入大国ニッポン」本文

日本家庭科教育学会 2011年度例会報告

▲2011年11月12日、日本家庭科教育学会2011年度例会が聖心女子大学(東京都渋谷区)で開催された。

恒例の研究発表は、4か所の会場で計20本の発表がなされ、各会場ごとに熱心な質疑応答や意見交換がおこなわれた。

後半のシンポジウムでは、緊急報告「東日本大震災と家庭科教師」と題して、岩手・宮城・福島の被災された東北3県の家庭科の先生がパネリストをつとめられ、それぞれのご報告があった。

大震災当日の3月11日とそれ以降のご苦労とご奮闘の日々を冷静に振り返り、淡々と語るパネリストのお話には、会場の先生方は熱心に耳を傾けておられた。

【研究発表】

- 1-1 家庭科教育を目的とした人間・環境科学—保育での実践事例から—
長山知由理(中野区立緑野中学校・お茶の水女子大学)
- 1-2 家庭科における「子育てしやすい」社会に向けた学びに関する研究
森田美佐(高知大学教育研究部)
- 1-3 子育て支援利用の現状と課題—幼稚園・保育所に通う子どもをもつ家族を対象とした子育て調査から—
表真美(京都女子大学)
- 1-4 保育領域教材としてのペロー童話「赤ずきん」
岡芹愛子(聖セシリア女子短期大学)
- 1-5 自己肯定感を育成する幼児とのふれ合い体験学習
岩瀬玲奈(静岡県御殿場市立富士岡幼稚園)
志村結美(山梨大学教育人間科学部)
- 1-6 高等学校家庭科における家族に関する授業の検討
富田早貴(栃木県立足利清風高等学校)
志村結美(山梨大学教育人間科学部)
- 2-1 短期大学における衣服関連実習の効用
西岡敦子(大阪国際大学)
- 2-2 高等学校家庭科における被服行動に関する教材開発及び授

業実践

- 猪野又友美(大分大学教育学研究科(院生))
財津庸子(大分大学教育福祉科学部)
- 2-3 甲斐絹を題材とした高等学校家庭科における授業の検討
土橋由紀(山梨県立富士河口湖高等学校)
志村結美(山梨大学教育人間科学部)
斉藤秀子(山梨県立大学人間福祉学部)
 - 2-4 地域連携授業と家庭科の役割—学年行事「うどん作り教室」の取り組みを通して—
野田知子(帝京大学文学部教育学科)
 - 2-5 秋田県の食文化の実態をふまえた食教育のあり方
佐々木信子(秋田県立雄物川高等学校)
 - 2-6 調理実習に関する事例研究
早坂大成(上越教育大学大学院学校教育研究科)
佐藤ゆかり(上越教育大学)
 - 3-1 「人とかかわる力」に関する高校生の意識・実態と家庭科
吉村祐美(福井大学大学院教育学研究科(院生))
荒井紀子(福井大学教育地域科学部)
 - 3-2 実践的推論プロセスを取り入れた授業実践—オハイオ州 Bellefontaine 高校「人間関係プロジェクト」の実践をもとに—
荒井紀子(福井大学教育地域科学部)
鈴木真由子(大阪教育大学教育学部)
綿引伴子(金沢大学人間社会学域学校教育系)
 - 3-3 家庭科教育における「自分を見つめる」学習の実際と課題
服部晃次(大阪教育大学大学院教育学研究科)
鈴木真由子(大阪教育大学)
 - 3-4 学校教育における「少子・高齢化」に対する教育と教科「家庭」の役割—高等学校家庭科と社会科の比較検討を通して—
壹岐菜穂子(岡山大学教育学部(学生))
佐藤ゆかり(上越教育大学)
佐藤園(岡山大学大学院教育学研究科)
 - 3-5 経済的側面から考える社会的自立—高等学校家庭科の授業ディスコース分析—
齋藤遥子(秋田大学院教育学研究科)
望月一枝(秋田大学教育文化学部)
 - 4-1 小学校家庭科における地域に関する学習の可能性
志村結美(山梨大学教育人間科学部)
水越のぞみ(山梨県忍野村立忍野小学校)
 - 4-2 家庭科教育における「評価」—大学生の評価観の変化—
伊深祥子(愛知教育大学)
 - 4-3 家庭科教育を担当する大学教員のFD—附属学校研究会における参会者の要求に応える助言・講評の役割—
吉原崇志(元静岡大学)
牧野カツコ(宇都宮共和大学)
柳昌子(九州女子短期大学(非))
中屋紀子(宮城学院女子大学(非))
田結庄順子(元広島大学)

【緊急報告報告者】

岩手県から：佐藤公美(岩手県立黒沢尻北高等学校教諭)
宮城県から：佐藤郷美(仙台市立虹の丘小学校教頭)
福島県から：半谷香織(いわき市立平第二中学校教諭)

(研究発表題目、発表者所属および氏名、その他例会概要については、学会プログラムより転載)

Question & Answer

Q：最近ノンアルコールビールがテレビのCM等でさかんに宣伝されており、スーパーやコンビニでもよくみかけます。最近のものは過去に流通していたものとはどう違うのでしょうか。アルコール分0.00%と小数点第2位までゼロを強調していますが、これは車を運転する人や未成年者が飲んでも問題はないのでしょうか。

A：ノンアルコールビールは、2002年の道路交通法改正がきっかけとなり市場に登場し、流通するようになりました。同年、飲酒運転への罰則が強化されたことともなって、小売店や飲食店での需要が高まり、世間でも幅広く認知されることとなりました。ところが、当時のノンアルコールビールには、ノンアルコールと表示していても実際にはアルコール分をわずかながら含有した商品が存在していました。これは、アルコール分が1%未満であれば酒類とならないことが酒税法で定められていたことからです。たとえば、アルコール含有量が0.9%のものであってもノンアルコールビールと表示できたわけです。たとえばアルコール分1%未満であっても、多量に飲めば、お酒に弱

い人でなくても酔いますし、車を運転する際には、アルコール分の基準値が飲酒運転の数値に該当する可能性も出てきます。そこで、2004年5月に公正取引委員会が関連企業・団体にむけて表示適正化の指導要望を出したことで、ノンアルコールビールは「ビールテイスト飲料」などの呼称・表現に変化していきました。これは消費者が「ノンアルコール」という表記をアルコール分がまったく含有されていないと誤認することを防ぐためでした。このことが引き金になり、それ以降ノンアルコールビール(ビールテイスト飲料)の売上げは横ばいから低下傾向になっていったわけです。

その後、飲酒運転が原因による悲惨な交通死亡事故が契機となり、アルコール飲料に対するより厳しい考えかたが定着していきます。

また、健康志向の広がりとも相まって、アルコール類の摂り過ぎによる体への悪影響もさまざまな角度から指摘されるようになりました。健全なライフスタイルとアルコールとの関係も見直され始めています。

そこで、各ビール会社が2009年以降に発売したのが、アルコール分0.00%をうたった、真正正銘の「ノンアルコールビール」です。0.00%と小数点以下の数値を表示することで、わずかながらアルコール量を含んだ以前のものとは違うということアピールし、消費者の安心感を得たい、という思惑が各ビール会社にはあります。

これらの0.00%ノンアルコールビールは、法律上でも清涼飲料水と規定されるため、車を運転する人や未成年者の飲用は法律上では特に問題はないといえるでしょう。また、ビール酒造組合によると、2010年12月時点において日本のビール会社大手4社ではアルコール分を含むノンアルコールビール商品は生産していないと明言しています。

ただし、メーカー側は「20歳以上が飲用することを想定して開発した」としており、コンビニなどでは未成年者への販売を自粛しているところもあります。これは未成年者がビールの風味に慣れることで、本物のビールや飲酒への呼び水となる可能性を懸念した行動です。

2010年以降、各大手ビール会社はノンアルコールビールに機能的付加価値を加えた新商品を競って開発しており、ノンアルコールビールの需要は増加しつつあります。

今後もアルコールによる健康被害を防いだり、飲酒運転の根絶に役立つのであればノンアルコールビールの浸透は大いに歓迎すべきことといえるでしょう。ただし、未成年への広がりについてはより慎重に考えていく必要があると思われます。また、本物のビールと缶のデザインが似ているために、ノンアルコールと間違えてビールを飲んでしまったトラブルも報告されており、消費者団体は識別できるような表示の明確化をメーカー側に求めているところです。

(参考：日本ドリンク協会公式ブログ)

通巻47号 家庭科通信

2012年・1号

2012年3月25日発行

編集人 ©大修館書店「家庭科通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

Tel.(03)3868-2266(編集部) / (03)3868-2651(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 壮光舎印刷

[出版情報] <http://www.taishukan.co.jp>

[家庭科情報室] <http://www.taishukan.co.jp/kateika/>

毎日の授業に役立つホットな情報が満載!!

大修館ホームページ

家庭科情報室

<http://www.taishukan.co.jp/kateika/>

『出版物のご紹介』

家庭科教科書、および指導資料、副教材等を紹介しています。また、「Up Date」では家庭科出版物に関するQ&Aや新年度版のトピックスを補足しています。大修館書店教科書準拠シラバス案については「指導資料」に掲載しております。

〈CONTENTS〉

・教科書・指導資料・副教材・Up Date

『情報のひろば』

充実した資料・データや便利なリンク集で先生方の授業をバックアップ!!また、授業実践報告や最新の研究動向も扱っています。

〈CONTENTS〉

- ・家庭科通信
- ・きょうの特別講義
- ・あしたの授業研究
- ・家庭科シソーラス・Hot Data・リンクのひろば
- ・編集部News



新家庭総合



生活の創造をめざして

【家庭037】
●B5判・232頁●オールカラー

新家庭基礎



生活の創造をめざして

【家庭046】
●B5判・180頁●オールカラー

高校家庭総合



明日を拓く

【家庭038】
●B5判・226頁●オールカラー

高校家庭基礎



明日を拓く

【家庭047】
●B5判・162頁●オールカラー

どうして肥満になってしまったのか? 肥満になると体の中はどのような状態になるのか? 肥満にならないようにするには? 肥満はどうすれば治せるのか? 肥満の原因から肥満の分類、生活習慣病との関係、メタボリックシンドローム、肥満の予防と解消法、肥満症の治療に至るまで、肥満について一挙に解説します。

【主要目次ははじめに：肥満が増えた?／第1章
…肥満と肥満症／第2章：肥満と生活習慣病／
第3章：メタボリックシンドローム／第4章：
肥満にならないために／第5章：肥満の正しい
解消法／第6章：肥満症・メタボリックシンド
ロームを治す

井上修二・上田伸男・岡純【監修】

肥満と メタボリック シンドローム 生活習慣病

●四六判・208頁定価1890円(本体1800円)



もともとヒトは
太りやすい!!

大修館書店

書店にない場合やお急ぎの方は、直接ご注文ください。☎03-3934-5131

家庭科への 参加型アクション 志向学習の導入

【22の実践を通して】

編著者 ◆ 中間美砂子

著者 ◆ 小椋さやか、久保田まゆみ、小谷教子、坂本理恵子、真田知恵子、
新山みつ枝、野中美津枝、踏江和子



●B5判・179頁
定価2,100円(本体2,000円)
ISBN4-469-27001-6

生徒が実際に行動することを通して能動的に学ぶ「参加型アクション志向学習」を取り入れた家庭科の授業例を22の実践から具体的に紹介。

せりふ完成法、アンケート調査、ランキング法、ロールプレイ、ワークショップ etc.……生徒が実際に行動することを通して能動的に学ぶ「参加型アクション志向学習」を取り入れた家庭科の授業例を高等学校における22の実践例から具体的に紹介。授業の実際がわかるプリントやワークも掲載。中学校や小学校での実践にも適用できるヒント満載。

大修館書店

書店にない場合やお急ぎの方は、直接ご注文ください。☎03-3934-5131